



吉野氏ノーベル化学賞

リチウムイオン電池開発

日本人27人目 旭化成名誉フェロー



ノーベル化学賞の受賞が決まり、笑顔を見せる吉野彰氏
旭化成名誉フェロー。9日午後6時49分、東京都千代田区

※敬称略。南部氏、中村氏は米国籍、カズオ・イシグロ氏は英国籍。今年の受賞決定者も含む

歴代日本のノーベル賞受賞者

1949年	湯川 秀樹	物理学賞
65年	朝永振一郎	物理学賞
68年	川端 康成	文学賞
73年	江崎玲於奈	物理学賞
74年	佐藤 栄作	平和賞
81年	福井 謙一	化学賞
87年	利根川 進	医学生理学賞
94年	大江健三郎	文学賞
2000年	白川 英樹	化学賞
01年	野依 良治	化学賞
02年	小柴 昌俊	物理学賞
	田中 耕一	化学賞
08年	南部陽一郎	物理学賞
	小林 誠	物理学賞
	益川 敏英	物理学賞
	下村 脩	化学賞
10年	鈴木 章	化学賞
	根岸 英一	化学賞
12年	山中 伸弥	医学生理学賞
14年	赤崎 勇	物理学賞
	天野 浩	物理学賞
	中村 修二	物理学賞
15年	大村 智	医学生理学賞
	梶田 隆章	物理学賞
16年	大隅 良典	医学生理学賞
17年	カズオ・イシグロ	文学賞
18年	本庶 佑	医学生理学賞
19年	吉野 彰	化学賞

吉野 彰氏(よしの・あきら)1948年1月30日、大阪府吹田市生まれ。70年京都大工学部石油化学科卒、72年京大大学院工学研究科を修了し、旭化成工業(現旭化成)に入社。電池材料事業開発室長などを経て、2003年に同社フェロー。05年に同社吉野研究室長、15年顧問。17年から名誉フェロー、名城大教授。電池材料メーカーによる技術研究組合「リチウムイオン電池材料評価研究センター」(大阪府)の理事長も歴任。04年に紫綬褒章受章。13年にロシアのノーベル賞ともいわれるグローバルエネルギー賞、18年に日本国際賞、19年に欧州特許庁の欧州発明家賞を受賞。神奈川県在住。71歳。

【ストックホルム共同】
スウェーデンの王立科学アカデミーは9日、2019年のノーベル化学賞を旭化成名誉フェローで名城大教授の吉野彰氏(71)ら3氏に授与すると発表した。スマートフォンなどに広く使われるリチウムイオン電池を開発し、現在の情報化社会を支える成果として高く評価された。

日本人のノーベル賞受賞は27人目で、昨年、医学生

理学賞に選ばれた本庶佑(ほんじよ)京都大特別教授(77)に続く快挙。化学賞は10年の鈴木章(北海道大名誉教授(89))と根岸英一(米パデュー大名誉特別教授(84))以来で8人目。共同受賞は、米テキサス大オースティン校のジョン・グッドイナフ教授(97)ら。グッドイナフ氏はノーベル各賞を通じ最高齢受賞となる。

リチウムイオン電池は何度も充電して使える2次電池。正極と負極の間をリチウムイオンが移動して充電や放電する。吉野氏は1980年代、炭素材料の負極とコバルト酸リチウムの正極を組み合わせ、基本的な構成を確立した。

リチウムイオン電池は90年代に商品化され、小型軽量で高性能のためスマホやノートパソコンなどモバイル機器の普及に貢献。旅客機やハイブリッド車に使われるほか、再生可能エネルギーの拡大にも役立ち、用途は拡大を続けている。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金900万招(約9700万円)が贈られる。日本出身のノーベル賞受賞者は、長崎市生まれの英国人作家カズオ・イシグロ氏を含めると28人となる。